

令和元年度 第2回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和元年11月16日(土) 14時00分～16時30分
場 所	松戸市立博物館 会議室
出席者	<p>(委員)</p> <p>委員 大島 賢一 委員 大西 一樹 委員 岡田 啓峙 委員 谷鹿 栄一 委員 百田 清美 委員 濱島 正士 委員 佐藤 孝之 委員 日高 慎</p> <p>(事務局)</p> <p>教育長 伊藤 純一 生涯学習部長 片田 雅文 博物館館長 望月 幹夫 博物館職員 7名</p>
議 題	<p>(1) 会長・副会長互選</p> <p>(2) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について</p> <p>(3) (仮称)こども歴史博物館構想について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもモニター意見発表(DVD視聴) ・企画展「こどもミュージアム」の検証報告 <p>(4) 館蔵資料展「縄文貝塚 貝の花遺跡展」内覧と意見交換</p> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のスケジュール(変更)について ・松戸市教員博物館研修報告(参考)
経過及び概要	<p>新任委員委嘱状交付</p> <p>教育長挨拶</p> <p>生涯学習部長挨拶</p> <p>委員自己紹介</p> <p>博物館職員自己紹介</p> <p>議事</p> <p>博物館館長挨拶</p>
公開 非公開	公開(傍聴者0人)

配布資料	<p>会議次第</p> <p>【資料1】 委員名簿</p> <p>【資料2】 松戸市博物館リニューアル基本構想（たたき台）①</p> <p>【資料3】 松戸市博物館リニューアル基本構想（たたき台）②</p> <p>【資料4】 こどもミュージアム検証報告</p> <p>【資料5】 こどもミュージアム展示利用者調査 調査結果概要版</p> <p>【資料6】 基本構想・計画スケジュール（変更）</p> <p>【参考】 中堅教諭等資質向上研修（体験研修）報告資料</p>
------	---

【 議事 】

(1) 会長・副会長互選

会長を濱島氏、副会長を佐藤氏で互選した。

(2) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について

事務局から松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定の今後の進め方について説明した。

委員：資料2の赤字、黒字の違いはなにか。

事務局：前回の協議会で提示したSWOT分析の資料は5年前の資料であり、改めて内容を見直した。赤字は新たに追加した内容のもの。黒字は5年前の分析時のもの。

委員：こども歴史体験ゾーンには、小学校の教員の意見や声を取り入れられるか。意見反映の方法はどのように考えているか。教員はどのように博物館に伝えれば良いのか。

また、目標2「強烈にアピール」とあるが、博物館事業の1つである「博物館アワード」について周囲の教員含め自分も知らなかったもので、どのように周知していくのか知りたい。

委員：目標に対して具体的にはどのようなことをするのか知りたい。

事務局：教員の方が見学される「ナイトミュージアム」や、参考資料にあるような教員の方々の研修などを利用して教員の方々と積極的に繋がろうとしているところである。先生方にはご意見いただき取り入れたいと思う。

周知については、千駄堀地域の文化施設として公園、森ホール21として連携して、発信力を強めようと動いているところである。

また、今までの周知方法だけでなくSNSなども必要と考えている。

JRなどを使って広範囲に周知できないか、市全体としても広報に力を入れていこうとしているところである。

委員：これからは大災害を視野に入れ、資料3の基盤整備の目標に「博物館資料の保全・管理の対応」について必要となる。

委員：学校教員の意見を吸い上げるようお願いする。特に社会科の教員と連携を図っていければと思う。

事務局：学芸員の派遣については、できるだけ多く実施したいと思っている。

委員：集客に対する職員意識の改善についての方策が必要である。

委員：友の会会員の高齢化は会にとって大きな問題であるので博物館と協力して考えていきたい。未来を担う子供たちの学習を支えることは友の会の生きがいでもあるし、非常に大切だと思っている。

委員：目標にある新規のファン獲得と子ども中心に考えるというのは、必然だと思う。この目標をどのように体現していくかを考えることが非常に重要だと思う。博物館側から様々なことを発信していくというのは必要だと感じた。博物館の展示だけでなく学芸員派遣による出前授業などアウトリーチ型の取り組みが必要（例えば、授業のカリキュラムに取り込む仕組みなど）だと思うし、出前授業によって学びの興味喚起にも繋がると思う。

教育長：青年のオープンスペースが少ない。社会教育施設をはじめ、公共施設については総合的に考えていくべきだと思っている。

元学校教員を市に配置することで連携していくことができると思っている。

(3) (仮称) こども歴史博物館構想について

DVD（こどもモニター意見発表場面）の視聴と事務局から企画展「こどもミュージアム」の検証報告について説明した。

委員：リピーターが多かったというのは、それだけ魅力のある展示だったということだと思う。

委員：大成功であったと思う。親も子供も、3世代で楽しめる展示だったと思う。

委員：展示を見学したあとに体験したことを復習できるような、学びに繋がるような仕組みがあると良いと思った。

委員：リピーターを呼び込むことなど考えると常設展示にした時には、いろいろ工夫が必要だと感じた。

委員：今は家族の形が変わってきていて、様々な家族形態を踏まえて「親子」「家族」を念頭に置いてほしい。また、駐車場から博物館へのアクセスはきちんと明示することが大切だと思う。

委員：遊びで終わらせることなく、学びにつながるような仕組み、意識づけが必要だと思う。

委員：学校教育としての展示だと夏休み期間中は難しいかもしれない。

楽しんで終わりということは、そんなに悪いことではないと思う。体験して楽しかったと感じてリピーターになることもあると思うし、それがきっかけで子ども自身と家族が「発見」し「学び」に繋がるとも思う。

小学校高学年の来館が少なかったようで、来館が少なかった年代をターゲットにしたような展示を考えることもありなのかなと思う。

(4) 館蔵資料展「縄文貝塚 貝の花遺跡展」内覧と意見交換

展示を内覧した後、意見交換を行った。

委員：土器のクラフトを子どもたちが最後まで完成できるか気になった。

委員：1つの遺跡の中からも様々な遺物があることがよくわかった。もっと展示に調査・研究において苦労したことの内容を出しても良いのかもしれないと思った。

委員：聞けば内容がわかりましたが、見るだけではなかなか理解できないこともあると思った。また、貝塚の現在について説明が全くない。歴史が今にどう伝わっているか、どう変わっているかを市民に伝えてほしい。

委員：クラフトの近くに本物の土器があるのは非常に良いと思った。

委員：子供たちには難しいと思ったが、地図を見て場所を知ることによって好奇心を呼び起こすような展示であったと思う。

(5) その他

- ・今後のスケジュール説明を実施した。
- ・令和元年度第1回博物館協議会の議事録については、指摘事項なし。
- ・次回、第3回博物館協議会は令和2年3月7日（土）、8日（日）のどちらかで実施する。